

守山市発達支援センターだより



令和4年9月号
令和4年9月30日発行

守山市発達支援センター（発達支援課）
守山市下之郷三丁目2番5号 すこやかセンター内
Tel: 077-582-1158 Fax: 077-581-1628



— 第1回特別支援教育研修会開催報告 —

*日時: 令和4年6月30日(木) 14時30分から16時30分まで

*テーマ: ことばのメカニズム ～「聞く」「話す」とは～

*講師: 奈良大学社会学部心理学科 教授 礒部美也子 氏



「話す」「聞く」のメカニズムや、ことばに関しての支援が必要な子を理解するための大切な視点や手立てなどを、講師が経験したエピソードや冰山モデルの具体例を交えて分かりやすくご講演いただきました。参加者からは、「“聞く”“話す”のメカニズムについて触れる機会がなかったので、大変参考になった。」「言葉に関する課題がある子に対して、“ことばの鎖”のどの部分に課題があるかまず知ることによって課題への支援が変わってくることを知った。」「食べることも、話すことに繋がっていることにハッとしました。」などの感想をいただきました。「ことば」は伝達手段として、考える道具として、行動調整の手段として、その他にもさまざまな役割があります。支援をする中で、当たり前だと思っていることを、「なぜ？」と振り返ってみることの大切さを感じられた研修会となったのではないのでしょうか。

シリーズ 発音を育てる「か・き・く・けこ」

幼児期の発達の過程として、ある時期に発音の誤り(発音の育ちが未熟)がみられることはごく自然なことです。日々の生活の中で経験することで育まれる身体や認知の発達が、発音の育ちへとつながっています。今年度は発音の育ちを支える大切な力を4回シリーズでお伝えしています。

シリーズ② ～「き」きわける(聞き分ける)～

私たち大人は、単語(例えば「さかな」)を一つ一つの音として聞き分けることができますが、子どもは、「さかな」を一つの音(ひと塊)として捉えており、一つ一つの音として聞き分けることは難しいのです。そのため、「たかな」や「かさな」などの音の誤りや順番が入れ替わったりしてしまうことがあります。4歳過ぎくらいから、「さかな」は一つの音ではなく「さ」と「か」と「な」の“3つの音が組み合わさっている”ことや“順番がある”など音を意識する力が育っていき、聞き分ける力につながってきます。

音を意識する遊び(しりとりやことば集めなど)
を園でのすき間時間(朝の会の前や昼食の後など)
に楽しみながら取り組んでもらえると良いですね。

「さかな」



3つの音だ！。
「さ→か→な」
の順番なのか！

行動には必ず原因があります。その原因は目に見えにくいものですが、「本人の特性」や「環境要因」を考えていくことで、水面下に隠れている原因にせまることができます。以下に、冰山モデルと手立ての例を紹介します。子ども理解をすすめる方法として、冰山モデルを役立ててください。

